

令和5年度 第2回 岸和田市観光振興計画推進委員会

- 1 日時 令和6年1月25日(木) 午前10時～12時
- 2 場所 岸和田市職員会館2階 大会議室
- 3 出席者 **【学識経験者】**
石田信博
【公共的団体の代表者】
中井秀樹、山本義治、井上實、藤浪勝三
【関係団体の代表者】
兒嶋一裕、塩見正成、北林弘幹
【市民公募】
宮田晴未
【オブザーバー】
小嶺大輔、陳逸超
【欠席者】
小川雅司、佐野楓、土井康司、寺本信吾、加藤一
【事務局】
船橋魅力創造部長、井上観光課長、有留担当主幹、増田担当長、
藪内担当員、出口担当員、竹平(ブレインファーム)、
荒木(ブレインファーム)、中竹(ブレインファーム)
【傍聴者】 2名

- 1 開 会
(1) 部長挨拶
- 2 議 事
(1) WGの取りまとめについて
(2) 観光振興ビジョン・岸和田(素案)について
(3) アクションプランについて
(4) 今後のスケジュールについて
(5) その他
- 3 閉 会

配布資料

- 次第
- 配席図(資料①)
- 第2次観光振興計画評価シート(資料②)

○観光振興ビジョン・岸和田（素案）（資料③）

○アクションプラン（資料④）

○スケジュール（資料⑤）

1 開会

(1) 部長挨拶

2 議事

(1)WG の取りまとめについて

(2)観光振興ビジョン・岸和田（素案）について

●事務局

- ・第2次観光振興計画の評価の説明（資料②）。
（そのまま 次第（2））
- ・観光振興ビジョン・岸和田の概要、序章～2章の説明（資料③）。

●委員（D）

- ・先週送付されているものから更新されており、ページ数が変わっている。送付されたものに基づいて意見等をメモしている。

●事務局

- ・中身はほとんど変わっていない。
- ・本日の資料と送付資料を照らし合わせてご意見いただきたい。

●委員（A）

- ・2次計画の評価は概ねこれで良い。

●委員（C）

- ・SDGsの項目は前回無かったが入っていて良い。1ページもきれいにまとまっている。
- ・一方で、能登半島地震もあったように、災害と観光について記載はないのか。岸和田城の耐震の問題などもある。

●事務局

- ・能登は災害に対する危機意識が高い。岸和田市ではまだそこまで観光客に来てもらって

る状況ではなく、視点として漏れていた。災害時に来ている観光客に対してどのように対応するか、計画に反映したい。

●委員 (F)

・1～2章はこれまでの計画の振り返りみたいなものなので、災害対応は4章以降に入れるのが良いのではないか。

●事務局

・どの項目に入れるのが良いか含めて検討したい。

●委員 (F)

・昨今はSDGsに貢献できる地域の訪問地を選ぶという観光客もいる。観光とSDGsの結びつきについてはどう考えているのか

●委員(G)

・P8で、入国者は回復傾向と書いてあるが、2023年は関空ではコロナ前より1.5倍の利用になっている。最新データにしたら良いのでは。データは提供したい。

●事務局

・SDGsについては項目を整理して、市の総合計画をもとにゴールを決定している。対応についての資料は後日送付させていただく。

●委員 (F)

・観光の施策がSDGsにどう繋がっていくのかという視点、17のゴールに向けてどのように具体的に進めるのかが重要。多様性や気候変動対策としての緑化・環境に対する取組みは大阪観光局でも重視している。

●委員長

・計画について、分かりやすさを重視した、丁寧な記述や説明が求められる。

●委員 (E)

・行動計画の評価について、×は行動できていないということ。なぜできなかったのかをどこかに明確に記載し、次につなげるべきである。

●委員 (A)

・友好都市が環境に力を入れている。これまでSDGsは岸和田市に抜けていた観点である。

●委員長

- ・委員のご意見のとおり、わかりやすく書くことが重要である。
- ・2章の2次計画の評価については、お認めいただいたということで良いか。
(意見なし)

●事務局

- ・3章の説明。

●委員長

- ・岸和田市の観光の課題はWGの意見を反映しているものである。

●委員 (A)

- ・調査を多く行って良いが、データ数が少ないところもあるので、結論は決めつけずに慎重に出してほしい。

●委員 (F)

- ・全体的に主観的な立ち位置の書きぶりが多いように思える。客観性がやや薄いのではないか。
- ・P27の「機会があれば訪問したい」の51.4%をどう捉えるか。自分が観光客としてアンケートに記入した場合を考え、満足されていると考えるのではなくより厳しめに判断すべきではないか。
- ・P28の来訪者のニーズで「地域の名物の料理を食べる」が最多だが、これは今来ていない人たちの意見である。認知度の問題もあるが、本当に食が魅力なのか、というところまで深掘りした分析が必要である。
- ・P35の外国人の来客が少ない根本的な原因は何かをより分析すべき。岸和田に降りてから手荷物預かりがどうこうではなく、関空から手ぶらでいけるとか、他事業者との連携が必要になるかどうかまで分析してはどうか。
- ・P42は、やや他人事に思える書きぶりがあるので、変更したほうが良い。

●事務局

- ・全体的な書きぶりについては、当然自力でやっていくという書きぶりに変更する。
- ・P27の再訪意欲はKPIとして採用しなかった。「機会あれば」を厳しく考えるという委員のご意見はおっしゃる通りであると考えている。

●委員 (G)

- ・事業者アンケートについて、観光施設が「観光客が増えることについて歓迎する」のは当然であり、母数が少ないのでこのアンケートの位置づけが良いか疑問である。
- ・観光客の受け入れについて、住民の意見も知りたい。観光客と日常客をどう分けて対応していくか。
- ・食が魅力というのは阪南市など、どの自治体でも聞くが、何を、どこで、食べられるのか、というのが観光客にとっては重要である。

●事務局

- ・観光客が増加した場合、地域住民の方に受け入れてもらえるかどうか、丁寧に受入体制を整えていく方針なども必要。基本方針3では「市民の暮らしの質に影響が出ないよう配慮」を明記した。
- ・観光客と日常客の切り分けについて、今後 KPI で観光消費額を採用したいと考えているが、現在はかなり少ない。

●委員長

- ・留置きアンケートは外国人も含むのか。関空から来ている人／関空に行く人が一定数いるので、ターゲット分析にできないか。

●事務局

- ・外国人も含まれているが、ほとんどいない。関西国際空港に行く人の中にも日本人が多い。

●委員長

- ・関西国際空港から岸和田に来る人はマニアックではないか。

●委員 (A)

- ・マニアックな層がターゲットになるのではないか。

●委員 (E)

- ・P33 について来訪手段は何かが気になるので、聞いていたら掲載してほしい。

●委員 (A)

- ・全体的に、思い込みが多いのではないか。方法論と方向性が混在しやすいので、専門家にもしっかり聞いてほしい。
- ・大阪商工会議所でグレーターミナミの事業を進めている。

●委員 (D)

- ・トランジットで、インバウンドを誘致し、岸和田城に来てもらえないか。
- ・岸和田は食が魅力的であるというが、何を食べに来ているのか分からない。お城の周辺で食べる場所がない。五風荘は予約制である。食をピックアップするのであれば観光施設周辺の整備が必要である。

●事務局

- ・関西国際空港でのトランジットは少ないが、泉佐野市に泊まる宿泊客の岸和田への誘致策を考案中である。
- ・付加価値を付けられる城の周辺の飲食店は増えつつあるが、発信力が弱いのが課題である。
- ・農林水産課で食の磨き上げを実施しており、黒鯛を用いたメニューの開発・フェアの開催を行っており、一歩ずつ取り組んでいる。

●委員（D）

- ・駅や商店街でだんじりのからくりがあったり、だんじり囃子を流してもらうとかはどうか。岸和田に来たというのを印象づけたい。

●事務局

- ・だんじりを筆頭に、岸和田のいいところを五感で感じてもらえる施策を考えたい。

●委員長

- ・いただいた意見を付加、文言の修正をしたうえで、岸和田の観光の魅力と課題については、この項目で良いか。

（意見なし）

●事務局

- ・4章の説明。

●委員（C）

- ・KPIについて、観光振興の目的は、地域産業の活性化ではないか。商工産業振興の視点もあったら良いのではないか。KPIとして、新規観光産業就業者数や起業数を入れてはどうか。

●事務局

- ・観光産業という視点が現状あまりない。観光に来てもらう→楽しんでもらう→地域にお金が落ちるといった流れを目指す。KPIについては今後の指標として検討する。

●委員 (G)

- ・関西国際空港にトランジットはほとんどいない。ただ、その発想は参考にできる。岸和田は日本の拠点空港に最も近い観光都市である。空港についた時、まずチェックインして手ぶらになりたい人が多い、旅行者は“泉佐野市”に泊まっている意識はなく“関空に近いところ”に泊まっている感覚である。帰国前日、泉佐野に泊まってすることがない人が一定数いるため、その人を引っ張ってきたい。スモールツアーなどが考えられる。
- ・国内では、島根・鳥取の旅行者のうち関西国際空港を利用している人が半数以上。そうした、アウトバウンドを引っ張ることも重要ではないか。つまり、目的地に向かう前と後の客を連れてくる必要がある。

●委員 (D)

- ・人に来てもらうには PR が一番。南海電鉄や JR の主要駅にポスターはないのか。

●事務局

- ・昨年は泉佐野市や阪南市と連携し、合同で南海の駅に広告を出した。来年度については JR の DC キャンペーンに応募中である。予算の関係もあるが、できるところから実施したい。

●委員 (D)

- ・マップの表示が進行方向と逆になっているものがある。見にくいので統一してほしい。
- ・サイクリングの人に岸和田モデルコースマップなどを渡してはどうか

●事務局

- ・観光サインは老朽化が進んだものもあり、必要な情報を正しく伝えるという意味からも見直しを実施していく。
- ・サイクリングモデルルートの策定も考えている。

●委員 (F)

- ・P49 の基本方針の施策について、前回と比べてあまり代わり映えがしない。キーワードを入れ、今回のメインはこれというものがあると良いのではないか。「だんじり文化」といっても具体的に何を指すのか。もう一步踏み込んでも良いのではないか。

●事務局

- ・確かに前回とあまり変化がないが、それは、前回計画期間で課題にしっかりと向き合えていなかった結果、同じ施策になったということである。キャッチーなフレーズ等で差別化

できるよう検討したい。

●委員 (F)

- ・基本方針や施策で SDGs 的な考えを示せると良い。観光は総合的戦略的産業であり、観光事業者だけが儲けるためにやっているのではなく、雇用の創出など裾野が広い計画であり、インバウンドを通じて多様性を受け入れることを是とするまちであるべきということを市民に理解していただけるようにしていただきたい。

●委員 (B)

- ・岸和田といえばだんじりと城のまちである。岸和田にとってだんじりは別格であり、ガラが悪いというのも、言葉も、自分たちにとってそれは当たり前である。土地柄というものをもっと大切にしていきたい。
- ・今年リニューアルするだんじり会館を使い、だんじり文化を発信できないか。また、だんじりを見ながら食事ができる場所などがあれば良い。だんじりという貴重な財産を活かす方策を考えてほしい。

●事務局

- ・同じ思いであり、だんじりは貴重な財産である。当日だけでない取組みとしてだんじり小屋めぐりが評価されている。また、だんじり囃子、彫物などを通して通年観光を実施したい。
- ・だんじり文化を子どもたちにも引き継いでいくために教育機関との連携を検討したい。

●委員長

- ・表現などの工夫は必要だが、基本的に施策の内容については問題ないか。
(意見なし)

(3)アクションプランについて

●事務局

- ・5章 (アクションプラン 資料④) ～6章について説明

●委員 (E)

- ・まだ内容が増えると思うが、(1) ①と②が似ている。せつかくターゲットを設定しているので、誰に対するイベント開催なのかについて記載があるほうが施策としてぼやけないのではないか。

- ・(2) ③は、宿泊が有りか無しかで内容が変わる。
- ・(2) ④の周遊は、サイクリングに限らないのではないか。また、サイクリングで言えばシェアライドなども書いてもらいたい。

●委員長

- ・アクションプランの取組みイメージをもう少し具体化していただきたい。
- ・6章の推進体制については、本委員会で検証ということだがこの内容で良いか。
(意見なし)

- ・5章(アクションプラン)～6章についてこれでお認めいただけるか。
(意見なし)

(4)今後のスケジュールについて

●事務局

- ・スケジュールの説明(資料⑤)。
- ・今回は3月27日の午前中に開催予定である。

●委員長

- ・予備日として2月に開催予定だったが、本日出た意見を上乘せし、事務局で取りまとめていただき、書面で委員より意見を聴取するという形としたい。対面での推進委員会の開催は3月27日で良いか。

(意見なし)

(5) その他

●委員(D)

- ・WGでも発言したが、駅周辺の観光客のキャリーケースの預かり所を早急に整備が必要である。
- ・元睦会館はパン屋になり、心技館も取り壊しが決まった。城周辺の観光資源を無くしていくのはいかがなものか。

●事務局

- ・コインロッカーは市単独で整備は不可能なので、南海電鉄・JRと協議をしている。その

他、預かり所については観光振興協会と協議を進める。

- ・元陸会館は適切な審議のもと、活用方法が決定された。
- ・心技館についてはスポーツ施設であり、所管が異なるため、この場での発言は控えさせていただきます。

(そのほかに意見なし)

3. 閉会

●委員長

- ・本日の推進委員会を閉会する。